

いがまち人権センター解放講座

「新しい多文化共生社会をめざして」

録画日時:2022年7月8日(金)
(一社)タウンスペースWAKWAK
理事兼事務局長 岡本 工介

◆自己紹介

社会福祉士

社会活動家

社会

- ・ 関西大学人権問題研究室 委嘱研究員・講師
「部落差別の実践的課題解決」
「新しい人権論への招待」
- ・ 大阪公立大学 非常勤講師
「部落解放のフロンティア」
- ・ 宝塚市人権審議会委員
- ・ 大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程
「社会的包摂のコミュニティ研究」

個人

- ・ 環境教育事務所COT主宰
「人と人、人と自然を
つなぐエンパワメントな場づくり」

地域

- ・ 一般社団法人タウンスペースWAKWAK
業務執行理事 兼 事務局長
「子どもから高齢者 包摂型のまちづくり」



一般社団法人 タウンスペースWAKWAK



- 「ただいま～」と言える子どもの居場所づくり事業
(学習支援・子ども食堂・子どもの夜の居場所・社会的養護の子どもたちのバックアップ事業)
- コミュニティ・ソーシャルワーク事業(相談・包括支援)
- 障がいのあるないを超えてアートを学ぶ「ボーダレスアート事業」
- 高齢者・障がい者のライフサポート事業
- 大阪北部地震後の被災者支援から地域コミュニティ再生事業
- 市域広域事業(むすびえプロジェクト・高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業)
- 調査・研究開発事業
- 視察受け入れ/講師派遣事業

「ひとりぼっちのいないまち」

(社会的包摂<インクルーシブ>)



地域・家庭・学校・行政・大学・企業・医療等など
多セクターとの共創により課題解決を図る

- 予算規模 30,839,000円 (2022年度予算)
- 事務局 8名 (役員1、事務局長1、常勤1、スタッフ5)
- 120名以上 (うち有償58名) のボランティアに支えられ実施
- 市域ネットワーク 67団体、122名

**「ただいま～と言える子どもたちの居場所づくり」
NHK全国放送で放映！！**



**「地域魅力化ドキュメントふるさとグングン」
NHK総合 1チャンネル**

2017年4月30日(日)午前10時05分～48分

NHK全国放送 第2弾



「地域課題解決ドキュメントふるさとゲンゲン」
ひとりぼっちのいない町 高槻富田地区Part2
NHK総合 1チャンネル

2018年4月22日(日)10時5分～

政府広報(内閣府特番)



【子どもたちの未来のために～地域に根ざす支援の現場～】

○テレビ朝日(地上波)

2021年9月18日(土)

午前11時～

○BS朝日

2021年9月19日(日)

午後1時～

NHK全国放送Eテレ「バリバラ」

NHK

宣言

全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ。

長い間居られた来た兄弟よ、明治半世紀間に様々な方法と、多くの人々と共に過ごした吾等の為の運動が、何等の有難い結果をもたらした事かは、夫々のすべからず吾々に於て、又他の人々に於て身に人間を買込された、た罰であつたのだ。そして、これらの人間を動かすの如き運動は、かつて多くの兄弟を苦しませた事を想はば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集団運動を起すは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の湯仲者であり、実行者であつた。然るる階級政策の犠牲者であり男らし、産業的殉教者であつたのだ。ケラの成例と報酬として、生々しい人間の皮を剥取られ、骨の心臓を裂く代価として、暗い人間の心臓を引裂かれ、骨の下を、物言の嘘まで吐きかけられた。汝は汝の夜の悪夢のうらにも、心は誇り得る人間の血は、一滴もあつた。そして、吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者の烙印を授け得ず時が来たのだ。殉教者か、あの時冠を祀福される時が来たのだ。

吾々が待つてある事を誇り得る時が来たのだ。
吾々は、かならず幸福な言葉と法徳なる行為に於て、祖先を尊し、人間を買込してはならぬ。そうして人の世の暗さが、何んかに消たか、人間を動かす事が何んであるかをよく知つている。吾々は、心から人善熱と光を願ふ魂を燃やすものである。

水平社は、かくして生まれた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月

水平社



【水平社宣言100年】

- 第1回 「人間は尊敬すべきものだ」 3月 3日(木)午後8時
- 第2回 「人の世に熱あれ人間に光あれ」 3月10日(木)午後8時

『子どもと家庭を包み込む地域づくり』発刊

すべての子どもと家庭にウェルビーイングをもたらす地域づくり

ボランティア組織，社会福祉協議会，こども食堂，学校児童相談所，地方自治体，国……様々な機関が連携して住民が主役となる地域づくりのモデルを紹介し，展望する

第一部では，地域づくりの先進的で特徴的な取り組みを展開している地域＝沖縄県（内閣府からの補助金），滋賀県（社会福祉協議会の挑戦），明石市（市長の政策展開），大阪市西成区（ボランティア組織の活躍）を紹介する

第二部では，実際に地域づくりに取り組んでいるボランティア組織の実践家が，組織のミッションや取り組み，外部からはなかなか見ることの難しい地域づくりの内実など

その活動のリアリティを描く



テーマ：新しい多文化共生社会をめざして

○導入：ライフストーリー

- ・アメリカへの放浪の旅
 - 先住民との生活や黒人公民権運動の地
- ・帰還 もちかえったビジョン-新しい多文化共生社会

○誰にとっても住みやすいまちって？

- ・タウンスペースWAKWAK設立(社会的企業)
- ・「未来にわたり住み続けたい町」コミュニティ再生事業

○まとめ

マイライフストーリー

地域に育てられて

被差別部落に生まれ育つ

祖父の死

ルーツに対する見方が変わる。

放浪の旅

アメリカ先住民ラコタ族や黒人公民権運動の地への旅・・・

見えない心の壁

“ゆれ”をへて、地域に根を張って生きる覚悟



自分の大切にしたい **中心軸**

放浪の旅 (風の人)



- 州のほとんどが平原
- 夏の最高気温は50度ぐらい⇔冬は-30度
- 毎晩、プラネタリウムで見るような星が見える









ラコタ族の人たちと・・・







SOUTHERN
Authentic Collection

ラコタ族とは・・・

* ラコタ族・・・ラコタ＝人

→蔑称スー族 最後まで抵抗した部族

平原で生活していた人たち

移動式住居（ティーピー）で獲物を求めて移動して生活

主食：バッファロー



ラコタ族（アメリカ先住民）の今

コロンブスのアメリカ大陸発見＝政府による先住民への迫害と収奪の歴史がスタート



- ・ 条件の悪い土地への強制移住
 - ・ アメリカ政府による同化政策
- 先住民としての尊厳、文化を奪う政策



- ・ 現在 自殺率は居留区がトップ（特に若者）
- ・ 仕事がない
- ・ アルコール依存症の問題
- ・ 虐待の問題



社会の縮図として

- マイノリティといわれるところに社会の縮図として課題はいち早く、継続して、深刻に起こる



伝統を守り生きる人

- * そんな現状の中でも、 **たくましく生きる人**がいる。



彼らは、その状況下でも



自分たち独自の文化を守り伝えることで
アイデンティティ（ラコタ族としての誇り）を
築いている。

伝統を守って・・・

伝統的儀式を守り続ける。

・スウェット・ロッジ・セレモニー、サンダンス、ヴィジョン・クエスト



アメリカ南部への旅-I have a dream

* 私には夢がある。いつの日かジョージアの赤土の丘の上で、かつての奴隷の子孫たちとかつての奴隷所有者の子孫が同胞として同じテーブルにつくことができるという夢です。

私には夢がある。私の四人の幼い子ども達が、いつの日か肌の色ではなく人格そのものによって評価される国に住めるようになるという夢です。

I have a dream today

今日、私には夢がある！

将来いつの日か、幼い黒人の少年少女たちが、幼い白人の少年少女たちと兄弟姉妹として手に手を取ることができるようになるという夢です。

I have a dream today.

私には今日、夢がある！

* Martin Luther King's Speech -- I Have A Dream!

マーチン・ルーサー・キングのスピーチ

--私には夢がある！ 1963年8月¹⁶28日



エンパワメント

●1970年代 北米の黒人公民権運動が源流

『黒人のエンパワメント』（著者 ソロモン 1976）



「人は生まれながらにしてさまざまな力をもっている。

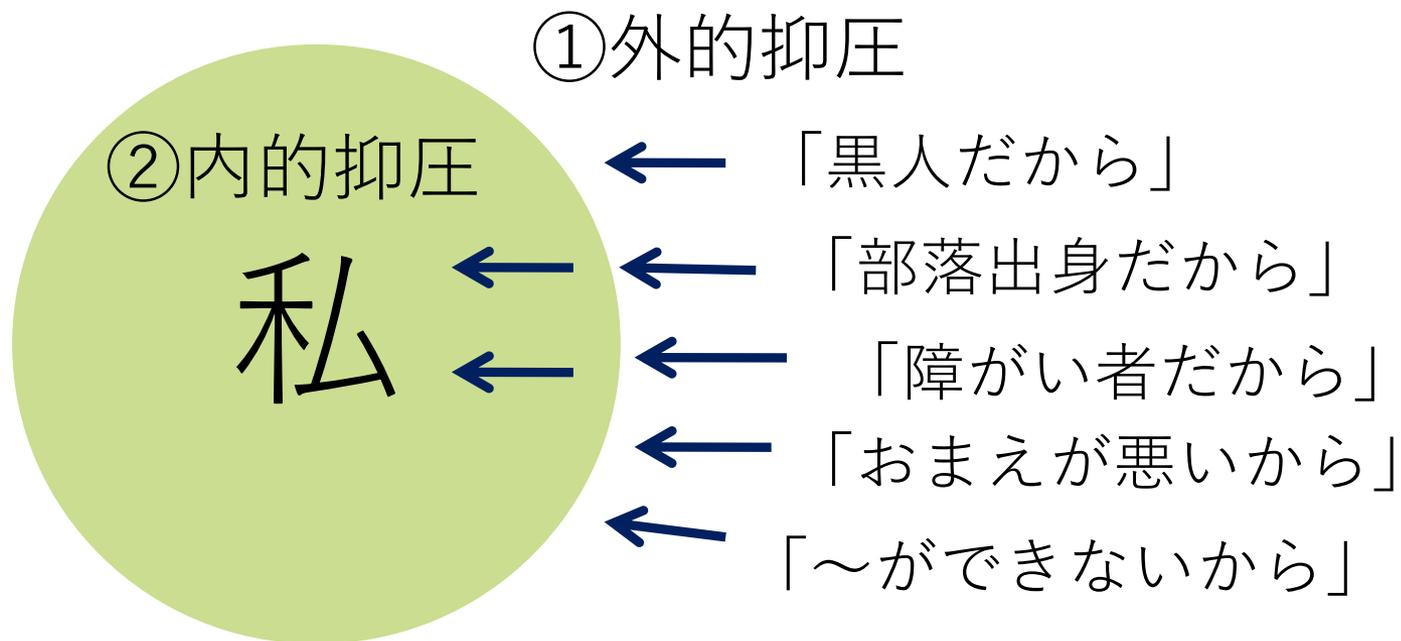
しかし、親を含め“社会”から抑圧や暴力や差別を受け、本来もっている力を傷つけられ、あるいは力があることに気づけないまま生きてきてしまうことがある。

そうした失われた状態の力を取り戻し、発揮していくための関わり方」をエンパワメントと呼びます。

（大阪府人権協会HP リレーエッセー「虐待防止はエンパワメントからはじまる」エンパワメント・センター主宰 森田 ゆりさん）

差別や虐待などがもたらすもの →外的抑圧と内的抑圧

差別がもたらすもの→外的抑圧と内的抑圧
負の連鎖



Black is beautiful
(黒人であることが美しい)

ラコタ族、黒人の人たち
多様な人種の人たち
との出会いを通して





人として
何を軸にして
どう生きるのか？



私のありたい姿(中心軸)

「ルーツを大切に生きる」

※水平社の考えにも重なる



Vision

Community Of Trees

雑木林が育つ森

→その時々々の役割や
肩書に併せて実現



RESPECT

Revitalizing and Enriching Society through
Pluralism, Equity, and Cultural Transformation



RESPECT—他者への敬意—が創造する、「新しい多文化共生社会」



-今、私がめざすのは-

これまでの多文化共生社会

「互いが対等な関係を築き
ながら一つのコミュニティに
併存する」

-今、私がめざすのは-

RESPECTを通じた未来共生の実現

本プログラムの通称: **RESPECT**プロジェクト

Revitalizing and Enriching Society
through Pluralism, Equity and Cultural Transformation



-今、私がめざすのは-

●新しい多文化共生社会

「国籍、民族、言語、宗教、性差、性的指向、病歴、障害歴、年齢差...

他者と他者とが互いに認め合い、助け合い、高め合い、新たな価値や利益を生み出すことができる、創造的で発展的な共生社会を目指す。」³⁸



でも、現実には・・・

「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」の背景

(1)特定の民族や国籍の人々を、合理的な理由なく、一律に排除・排斥することをあおり立てるもの

(「〇〇人は出て行け」、「祖国へ帰れ」など)

(2)特定の民族や国籍に属する人々に対して危害を加えるとするもの

(「〇〇人は殺せ」、「〇〇人は海に投げ込め」など)

(3)特定の国や地域出身である人を著しく見下すような内容のもの(特定の国の出身者を、差別的な意味合いで昆虫や動物に例えるものなど)

ヘイトスピーチ解消法の成立背景

○このヘイトスピーチが、マスメディアやインターネット等で大きく報道されるなど、更に社会的な関心が高まっている。

○平成26年7月の国連自由権規約委員会による日本政府報告審査における最終見解及び同年8月の国連人種差別撤廃委員会による同審査における最終見解で、政府に対してヘイトスピーチへの対処が勧告されています。

ヘイトスピーチ解消法の成立背景



近年，特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がいわゆるヘイトスピーチであるとして社会的関心を集めています。こうした言動は，人々に不安感や嫌悪感を与えるだけでなく，人としての尊厳を傷つけたり，差別意識を生じさせることになりかねません。

「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」

(ヘイトスピーチ解消法)

(平成28年6月3日に施行)

この法律は、本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消が喫緊の課題であることに鑑み、その解消に向けた取組について、基本理念を定め、及び国等の責務を明らかにするとともに、基本的施策を定め、これを推進することを目的としています。

新しい多文化共生は どうすれば

実現化するのか？

- 誰にとっても住みやす
いまちって？ -

差別解消の二つのキーワード

①差別事象の解消

→人権啓発等

②全般的な不利益の悪循環の解消

→社会的包摂のまちづくり

「社会的包摂のまちづくり」

誰にとっても住みやすい町を
どのようにして創っていくのか？

福祉と人権・協働のまちづくり事業へ

**タウンスペースWAKWAKは、
2012年2月、一般社団法人として設立されました！
－人権ネットワークから－タウンスペースWAKWAKへ－**

新しい公共を地域から 誰もが豊かに生きられる地域づくり

私たちがめざそうとしている社会は、すべての人に居場所と出番がある社会、すべての人がSOSを発信でき、互いに支え・支えられる社会、新しい公共としての住民主体による「自立」「参加」「協働」による地域の再生と互いに絆を結びあえるつながりの社会です。



一般社団法人タウンスペースWAKWAK

未来にわたり住み続けたい町

- 高槻富田地区 富寿栄住宅建替
からコミュニティの再生へ -

(一社)タウンスペースWAKWAK
地域福祉グランドデザイン事業

社会課題の解決

SDGs (国連提唱)

「住み続けられる町」
をつくる。

Point

SDGs-国連「持続可能な開発目標」

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

SDGs-国連「持続可能な開発目標」 -スローガン-

「誰一人取り残さない」

(No one will be left behind)

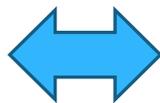
11 住み続けられる まちづくりを



地域・家庭・学校・行政・大学・企業 多セクター共創の仕組

インクルーシブコミュニティ・プロジェクト

○座長 志水宏吉(大阪大学)
学識者 渥美公秀(大阪大学)
高田一宏(大阪大学)
若槻健(関西大学)
内田龍史(関西大学)
新谷龍太郎(平安女学院大学)
相良典子(平安女学院大学)
弁護士 森本志磨子



「地域から広がる第3の居場所
アクションネットワーク」

○座長 三木正博(子ども・子育て会議委員)
SV 山本外志子(社会教育委員)
田村みどり(常磐会短期大学)
坂田朱美(いきいき会)

富田エリア事業

- ・コミュニティスペースプロジェクト
- ・教育コミュニティプロジェクト

市域広域事業

- ・むすびえ居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国)
- ・高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業

「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成をもとに



「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成の活動紹介

絆ある社会づくりを目指して

こどもや障がい者・高齢者など、地域社会で孤立しがちな人々を地域で支える仕組みづくりを行っています。こども達への学習支援や、誰もが参加できるこども食堂の開催、障がい者も参加できるアート教室などを運営。多数の事業を通して、多様なつながりを実感できる社会の実現を目指します。

一般社団法人
タウンスペースWAKWAK

この活動につながるSDGs...

An infographic with a blue background. It features a rainbow, a cloud with a tree, and a group of people sitting around a table. There are also icons for various SDGs (1, 4, 5, 10, 11, 17) and a cartoon illustration of a child and a cat at the bottom.

○助成および広報（SDGs号における取組の紹介）等で多大なご協力

↓
さらに通常の阪急電車車内でも掲示
(~2021年も継続)

きっかけ・・・

大阪北部地震

富寿栄団地12・13棟が倒壊危機 →取り壊し



○富田地区まちづくり基本構想（高槻市）

富田地区まちづくり基本構想

- ・まちづくりのコンセプト(目指すまちの姿)・基本方針

施設一体型小中一貫校構想

- ・「魅力ある学校」づくり基本構想・学校整備方針

施設整備基本方針検討

- ・市有施設の建て替え・集約・複合化の検討

地域福祉グランドデザイン事業 2019

○建て替えに向けた現在の主な課題

建替研究会・入居者委員会は高齢者の声を中心

- ・子ども・若者・子育て世代等の反映が必要

箱モノの建て替えのみが検討課題となっている。

- ・余剰地のあり方を含めたコミュニティ全体の姿を検討
- ・集会所・公園・お風呂、居場所などコミュニティスペースのあり方

例えば20年後の入れ替え時を考えた住宅のあり方

老朽化した公的機関(例:富田ふれあい文化センター他)の行方

地域福祉グランドデザイン事業 2019

フェーズ1 住まい編(住宅建替)

- 高槻市建替事業への子どもから高齢者の声の反映

フェーズ2 まちづくり編

(長期的なコミュニティの再生)

- ハード面 余剰地の有効活用
- ソフト面 コミュニティミックス・多世代居住
- 人と人がつながる社会的包摂の町
- 地域資源を活かした「まちの顔」づくり

住まい編(住宅建替)に向け 子どもから高齢者 多様な声の集約

高齢者

- 建替研究会・入居者委員会
-
- まちネットWS開催

量的調査
(アンケート)

障がい者

- 高槻支援学校



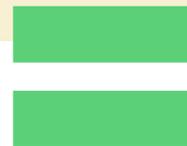
子育て層

- 四中校区PTA学習会

質的調査
(WS/インタビュー)

若者

- 近隣の大学の授業
- 平安大、人科大ほか



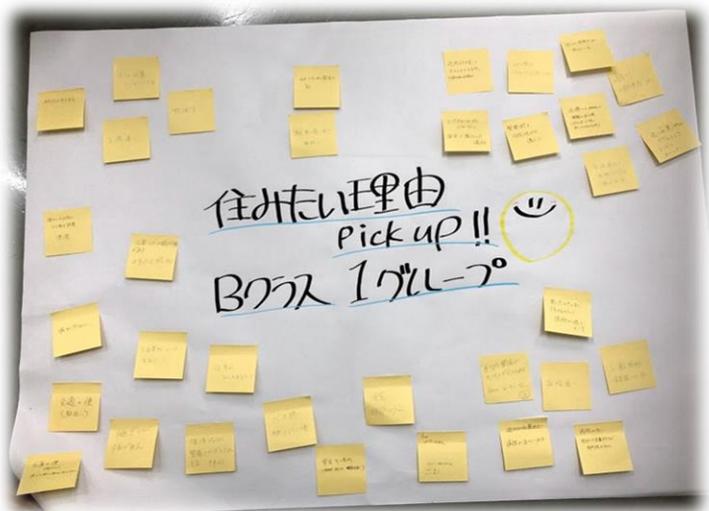
外国籍

- 大阪大学共生社会論を通じ
☆留学生
☆研究者の声

まちづくり
プラン

○基礎調査項目づくり × 平安女学院大学短期大学

地域福祉原論 5/28
受講生70名



大阪大学との協定締結

共創知を
生み出す「場」



 OOS 大阪大学オムニサイト
Osaka University Omni Site



● 平安女学院大学
大阪人間科学大学
関西大学 に加えて

● 大阪大学
オムニサイト協定の締結
(2019年9月20日)

+

未来共生プログラム
「公共サービスラーニング」
インターン受け入れ
(2019年10月～)

+

研究者のフィールド提供

●アンケート内容

☆富田地区コミュニティ再生事業アンケート

- ① その町に住みたい理由ピックアップ!!
あなたがその町に住みたくなる理由
としてどんなことがありますか？
- ② すまい編ピックアップ!! あなたがすまいを
選ぶ際に重要視するものは何ですか？
(例:間取り、家賃、近所付き合いなど)

●アンケート内容

☆富田地区コミュニティ再生事業アンケート

③ まちが子ども・障がい者・高齢者・外国籍の人たちなど誰にとっても住みやすい町になるためにハード面（施設・建物など）・ソフト面（事業やイベントなど）でどんなことが必要だと思われますか？

（ハード面） 施設や建物としてこんな場所があったらいいなと思われるもの

（ソフト面） 事業やイベント、講座などであったらいいなと思われるもの

●多様な層の声の集約 -地元住民・入居者の声-



●富田まちくらしづくり ネットワーク主催 ワークショップ

●2019年8月2日(金)・11月19日(火)

●対象 自治会役員・住民 41名

※特徴 話文化

- ・次の地震が来れば不安。一刻も早く引っ越ししたい。
- ・バリアフリー化・エレベーターが必要
- ・防犯をしっかりとしてほしい。
- ・家賃がどうなるのか心配。

●多様な層の声の集約-大学生の声-



●平安女学院短期大学

(地域福祉原論・5/28・70名)

(社会調査の基礎・12/10・114名)

平安女学院大学

(社会的養護内容・11/07・58名)

大阪人間科学大学

(相談援助演習 7/22・54名)

(SSW論 7/23・91名)

ほか

- Wifiがつながる
- おしゃれなカフェがある
- 街灯が多い
- 建物内に子ども食堂や放課後デイサービスがある
- バス(お風呂)とトイレがセパレート(わかれている)
- 24時間かけつけサービス

●多様な層の声の集約 -子育て層の声-



●中学校区PTA学習会

講師：大阪大学 渥美公秀先生

●2019年9月7日(土)

●対象：中学校区PTA 49名

- ・子どもが伸び伸びと遊べる公園がある。
- ・ワーキングマザーの交流の場
- ・子どもと遊べるイベント親がつながるイベント
- ・放課後・土日に子どもをみてもらえる所
- ・子どもから高齢者が楽しめるイベントや祭りなど

●多様な層の声の集約 -障がい者の声-

●高槻支援学校 教員対象校内研修

●2019年8月28日 対象：教員99名

- ・視覚支援の人がわかりやすい表示
- ・聴覚過敏で蛍光灯や冷蔵庫の音が辛い人が買物しやすいスーパー
- ・障がいのある人が年齢問わず家以外に居場所にできる施設(余暇活動の充実)
- ・高齢者・障がい者への具体的支援の方法を学べる講座
- ・障がいがある子も地域とつながる事ができるような地域や学校の取り組み

●多様な層の声の集約 - 外国籍の人の声 -

●英語版 Survey for local reconstruction of Tonda district

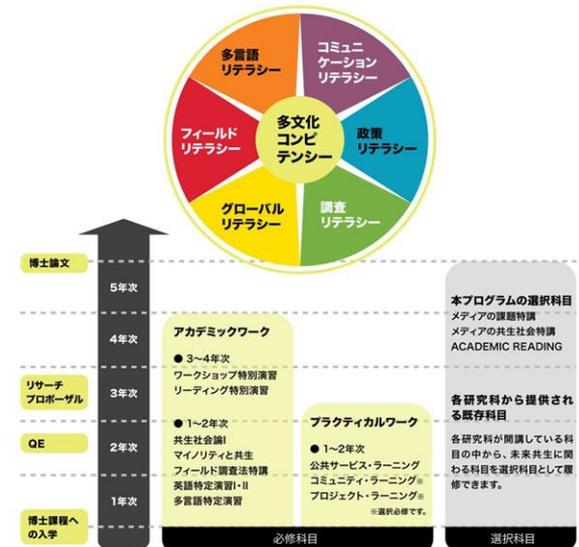
●ポルトガル語版 Questionário para a reconstrução da cidade de Tonda



多文化共生社会の推進という課題に取り組むグローバルリーダー
未来共生イノベーターの養成



- ・日本の手続きやルールを教えてくれる場所
- ・外国語で相談できる窓口がある
- ・地元住民(日本人)と外国人と一緒に楽しめる地域のお祭り
- ・災害時に備えた講座や多言語案内
- ・外国人向けの相談室や日本人との交流会
- ・多言語もしくは簡単な日本語での表示案内



(協力:大阪大学在籍留学生等 50名)

●多様な層の声の集約

- 共通の声 -

- ☆ワンストップで様々な相談に応じてもらえる場所
- 多様な文化や人権課題、社会課題を学べる場所
- 子どもから高齢者が楽しめるイベントや講座
- カフェなどのふらっと気軽に寄ることができる場所
- 住民同士の顔の見える関係性がある
- 掲示物が見やすく誰にとってもわかりやすい

地元小・中学校×地域 「いまとみらい科」



○多セクターの協働による社会課題解決

○コミュニティ再生に向けた町の機運の醸成

ゆめみらい学園 4年「マイタウンミーティング」

赤大路小の取り組み

7年の取り組み～



富田わくわく子ども食堂(2/22)へ参画

マイタウン ミーティング

いみんが幸せにくらせるまちをつくらう〜



地元小・中学校×地域 「いまとみらい科」

富田小学校4年生「マイタウンミーティング」



「未来にわたり住みたい富田のまちMAP」
を子どもたちが作成



「まちの提言書」を
高槻市都市創造部に提出



地域住民の声に様々な層の声を加えた市営住宅に対する要望

第2部 「まちに対する子どもから高齢者 多様な人たちの声」

第2部 「まちに対する子どもから高齢者 多様な人たちの声」

地域住民の声に
様々な層の声を加えた
市営住宅に対する要望

B. 富田地区
コミュニティ
再生事業
アンケートより

1. 建替住宅についての要求性能

A 富田まち・くらしづくりネットワークのワークショップより

“安全”・“安心”・“快適”をキーワードに以下のテーマとその目標を整理

- | | |
|--|---|
| 1 防災性の高い住宅
災害(台風、地震等)に強い住宅
災害時の備えのある住宅
(停電に備えたバックアップ施設整備等) | 2 防犯性の高い住宅
盗難対策のなされた住宅
不審者侵入対策のなされた住宅 |
| 3 バリアフリーな住宅
スムーズな移動が確保された住宅 | 4 見守りのある住宅
日常的に安否確認のできる住宅
災害時に安否確認のできる住宅
ワンストップ相談(コミュニティ
ソーシャルワーク)機能がある住宅 |
| 5 便利に暮らせる住宅
使いやすい駐車場やゴミ置き場
がある住宅
使いやすい外部収納設備がある住宅
多様な情報システムが活用できる住宅
便利で暮らしやすい間取りの住宅 | 6 快適に暮らせる住宅
それぞれの居場所がある住宅
趣味などが楽しめる住宅
居心地のいい空間のある住宅
ベットと暮らせる住宅 |

子育て支援

- 子ども食堂や放課後デイサービスがある
- ワーキングマザーの交流ができる
- 子どもが伸び伸びと遊べる公園がある

コミュニティ・まちづくり

- 住民どうし顔のみえるまち
- 多世代居住でコミュニティミックスのあるまち
- 人と人がつながる社会的包摂のまち
- 余剰地を活用した将来につながるまちづくり

居場所づくり

- ふらっと気軽に立ち寄れる場所がある
- 子どもからお年寄りまで多様な人々がコミュニケーションできる場所づくり

誰にもやさしい住宅環境

- 視覚や聴覚などの障がいがある人も暮らしやすい
- 環境づくり
- 掲示物や、標識などが見やすくてわかりやすい
- 街路灯の整備された環境
- 毎日の見守りサービスがある
- 24時間かけつけサービスがある

2. 移転、その他に関する要望

建替住宅へのスムーズな移転(引っ越し)ができるようなサポートが必要
防犯システムや見守りシステムを運営コストと合わせて検討
高齢者が下層に住めるようなルールづくり

階組が一掃に住めるようなルールづくり
障がい者グループホームの円滑な移行確保

協力:(株) 縦プランニング

地域住民の声に
様々な層の声を加えた
市営住宅に対する要望

2

安全

防災

- 災害(台風、地震など)に強い
- 災害時への備え(備蓄食品、生活用品、救助用品)
- 備蓄物は地域共同で行い防災訓練の時に中身の見直し・交換を行う
- 防災時の給水がある
- 公園は災害時に備蓄や応急トイレなど生活支援できる

防犯

- 盗難対策
- 不審者侵入対策
- 住宅地と外部の境界は高いブロック塀等で遮断せずフェンス等で見通しを良くする
- 録画機能付き防犯カメラ
- エレベーターには防犯カメラを設置しTVモニターで中の様子がわかるように
- 防犯性の高い壁
- 災害で停電、断水した時の対応を考えた住宅づくり
- 災害時のエレベーターの停電対応がある
- 停電時も空調が管理されている
- 地震でも崩し込まれない耐震ドアの設置

安心

バリアフリー

- エレベーターに高齢者が乗れるベンチが必要
- 階段やステップの勾配がゆるく上がりやすいものに
- エレベーターに高齢者が乗れるスペースがある
- 手押し車が入れるスペースがある
- エレベーターや廊下にベンチやパーを設置
- エレベーター付近に福祉サービス用の駐車場2台~3台
- 車イスと介助者が入れるエレベーターでミラー付き
- ストレッチャーの入るエレベーター
- 室内を車イスで動けるような廊下の幅がある
- 手すりは介護保険や自分で購入してつけられるので、壁等荷重手すりを付ける前提の下地増強等の構造
- 玄関脇に手押し車スペース
- 室内は車イス対応
- スムーズな移動の確保

見守り

- 安否確認(日替)
- 安否確認(災害時)
- ゴミ出しが安否確認に繋がるようにする
- 指定管理者制度の導入(安否確認の実施等)
- 人感センサー等の活用による見守りサービスの導入
- お風呂とトイレに緊急通報ボタン

便利

快適

快適

- 未客用有料駐車場(タイムズ等)
- 機械式駐車場で原付車とは別
- 平置き駐車場でバイク置き場は自転車とは別
- ゴミ置き場のドアは重くなく高齢者でも軽いドア
- 駐輪場はレーン式やライン引きなどをして乱雑にならないように
- 公園と外部との境界はボール遊びなどの利用を考えて背の高いフェンスを設置
- 居心地のいい空間、住まい
- 居場所がある
- 趣味などが楽しめる
- ベットと暮らせる
- 階組で一掃に住らせる
- 管理が難しいので公園に砂場・芝貼りはしない
- 砂場はネコのトイレになるので不要
- 益壽りのできる広さの平地スペースの公園
- 公園の縁石は高木及び低木とし、見通しを妨げる中木は植えない
- 新熱性能防音性能が高い
- バスとトイレが分かれている
- 隣の部屋より立ての部屋の防音性能が高い
- 和室不要→高齢者は布団よりベッド、座布団より椅子になる
- 押し入れよりクローゼット→たんずは置く部屋が狭くなる。地震対策にもなる
- 不法投棄防止のゴミ置き場
- 入居者にゴミ置き場の鍵を持たせて入居者以外は投棄できないようにする
- 高齢者へのゴミ出しサービスの提供
- ゴミ置き場は住棟から離し、臭い対策を十分に
- ゴミ置き場は住棟から離し、臭い対策を十分に
- 広めのエレベーター
- 高齢者でも自分でゴミが出せる様に上層階にもゴミ収集場が欲しい
- 引っ越しの手助け→高齢者の引っ越しは難しいので作業ゴミの仕分け、荷物仕分けをしてくれる人が必要
- ウォッシュレット等使いやすいトイレ

→高槻市の市営住宅建て替えのための仕様書に反映

全体のまとめ

* - コミュニティ再生事業に込められたもの -

* インターネット上に悪意を持って流されたこの地域に対する動画を見て深く傷ついた少年を目の前に、同じふるさとに生きてきた者として「自分には何ができるのか」「何を次の世代へと手渡していけるのか?」、そう自身も深く傷つきながら自問自答する中で、事業の立案が始まりました。

* この地に生まれたことを恥じてしまわざるを得ない差別の現実があるとするとするのなら、この事業を通してもたらされるまちの姿が

* 「このまちに生まれてよかった。」「このまちって素敵なまち。」と思え、喜びによって傷がとけていくような、思わず笑顔になってしまふような、そんなギフトを届けたいと願い実践を始めました。

* (富田地区インクルーシブコミュニティプロジェクトレポート2022 あとがき)

○参考文献・今回の実践をまとめたものほか

- ・池田寛(2000)『地域の教育改革—学校と協働する教育コミュニティ』, 部落解放人権研究所
- ・岡本工介(2018)『大阪府高槻富田地区における包摂型のまちづくり』, 関西大学人権問題研究室紀要77号。
- ・岡本工介(2020)『コミュニティ・オーガナイズングによる社会変革の共創』, 部落解放研究213号
※(一社)部落解放・人権研究所設立50周年事業「部落解放・人権研究奨励賞受賞」
- ・岡本工介(2021)『多セクターとの共創による包摂型地域コミュニティ生成-富田地区大阪北部地震後のコミュニティ再生の取り組み(1)(2)』, 関西大学人権問題研究室紀要82号・83号
- ・谷川孝至・岩槻知也編著(2022)『子どもと家庭を包み込む地域づくり』, 晃洋書房
- ・NHK全国放送「地域課題解決ドキュメントふるさとグングン 高槻富田地区ひとりぼっちのいない町」(<http://www.nhk.or.jp/chiiki/program/180422.html>)
- ・内閣府特番「子どもたちの未来のために～地域に根ざす支援の現場～」(https://www.tv-asahi.co.jp/kodomo_mirai/)
- ・NHK Eテレバリバラ「全国水平社100年」
(<https://www.nhk.jp/p/baribara/ts/8Q416M6Q79/blog/bl/pLX3Q03nzZ/bp/p4R19BgyJX/>)